

わが町の名人・達人・職人

『自然環境浄化』達人

NPO法人 ゆげ・夢ランドの会

会長 村瀬 むらせ 忍 しのぶさん



今月号は、弓削地区でEM菌を活用した自然環境浄化活動を繰り広げているNPO法人 ゆげ・夢ランドの会の会長 村瀬忍さんをご紹介します。

青いつなぎのおじさん

青いつなぎの作業服を着て、毎日のように、軽トラックで弓削地区を走り回っている元気なおじさんがいます。この人こそ村瀬忍さんです。

環境浄化活動を始めたきっかけ

平成15年5月頃、下弓削地区の下水路から異臭が発生し始め、その解決策として取り入れたのがEM菌で

した。地区役員全員で何度も何度も勉強を重ね、ようやくEM菌を使ったダンゴを作ることができるようになりました。そして下水路にそのEMダンゴを入れたところ、効果観面、下水路の臭いがなくなりヘドロも減らすことができました。

そして、残ったEM菌を使って何かできないかと話し合ったところ、以前、島のほとんどの海浜で採れていたアサリを取り戻そうと海浜の浄化活動を始めることにしました。

はじめは、下弓削区の活動として、取り組んでいましたが、各地区からも「やってみたい」という声があり、弓削地区全域に活動が広がりはじめたことから、法人格を有し、責任を全うする団体として活動していこうと、本年1月に「ゆげ・夢ランドの会」を立ち上げ、4月には法人格を有する特定非営利活動法人（NPO法人）を取得しました。

現在の会員数は250名に達し、次の3つの活動に取り組んでいます。

- ①「私たちの海にアサリを！」と称し、汚染されたアサリを呼び戻す活動
- ②「生ゴミをリサイクルして家庭菜園・花壇の活性化を！」と称し、ゴミの減量を図りつつ、緑の自然を増やす活動
- ③「家庭生活に活かす有用微生物活性液！」と称し、米のとぎ汁を使

用することによる環境汚染の拡散防止を目指す活動

これまでの活動と苦労話

半年間、用水路や海浜へEMダンゴやEM活性液の投入を続けたところ、用水路にはメダカが戻り始めました。海浜は、ヘドロの臭いがなくなり、砂の色が白くなって、藻が多く生えるようになり、十数年いなくなっていた生き物（アサリ・たち貝・シオマネキ・ゴカイなど）が増え始めました。



復活した自線シオマネキ

この少しずつでも確実に復活しつつある海浜の様子を見ることが活動の励みとなっています。

しかし、小さいアサリが見え始めた頃、どこかで聞きつけた人たちに掘り起こされ、全部持つて帰られることが度々起こりました。

これは残念で仕方がありませんでした。しかし、負けずにアサリの復活に力を注いでいます。

また、資金面の調達に苦労しています。この活動には、年間150万円、200万円の費用がかかります。どうにかして資金を調達していくシステム作りをしていかなければなりません。

学校との関わり

小学校でEM菌の話をする機会があり、学校側が大変興味を示してくださり、今では小中学校全校生徒が総合学習の時間でこの活動に参加し

ています。弓削高校も最初に技術の提供をしたところ、現在では、学校独自でEM菌の活用運動をしています。子どもたちも

だんだん積極的に取り組んでくれるようになり、ダンゴの投入の際には海岸清掃も行ってくれるようになります。



中学生とのEMダンゴ作り

今後の目標

この活動をやり続けることです。続けていけば、絶対に成果があらわれると思います。そしていずれば、上島町全地域にこの活動が広まり、子どもたちが大人になった頃に、上島町のどこの海浜でもアサリが採れるようになっていたらいなあと思っています。子どもたちに上島町の美しい自然という財産を残してあげたいと思っています。

上島町の人へのメッセージ

EM菌を何にでもいから使ってほしいと思います。そして何に良いかを分かってもらい、家庭用排水等どこからでもいいから環境が良くなっていけば良いと思います。町民の人々にも立ち上がってほしいと思います。私たちの技術はいつでも提供します。